

委員会をはじめ、年間を通して活動する組合員を“むすび”ます。活動の紹介、情報発信の場をめざします！

2022年度いなぎめぐみの里山 委員会交流デーを開催

里山の保全のしくみを知り、様々な体験ができる「いなぎめぐみの里山」。地域社会との交流も含め、組合員が参加できる「場」として2004年に開設されました。6月28日、エリアを越えた委員同士の交流を図るため「里山」で開催された委員会交流デーの様子をお伝えします。



■猛暑の中12委員会が里山に集合

「いなぎめぐみの里山」は、パルシステム東京が掲げる「農と緑の創生」をキーワードに、野菜の植え付や収穫、散策、里山の素材を利用したリース作りなど、様々な企画を通して自然と触れ合う機会を提供。今回の委員会交流デーには、猛暑の中、12委員会41名の参加がありました。

パルシステム東京の所有地は後楽園球場の半分ほどの面積で、竹林や斜面に広がる雑木林、畑のほか、グリーンワークが借りている畑などもあり、地図を見ながら確認しました。パルシステム東京から業務委託を受け、里山の管理運営を担う「NPO法人いなぎ里山グリーンワーク」の代表から、里山の保全や、現状について聞きました。「里山は人の手の入った二次林です。温暖化の原因と言われているCO₂。里山の木々は光合成することでCO₂をため込んで生長します。里山には非常に大きな役割があるんです。間伐しながら雑木林を保全していますが、間伐材の有効活用について国を挙げて考えてほしいし、今後の里山の未来を考えるうえでの大切な課題です」と話しました。



■コロナ禍での活動を報告

その後、各委員会がコロナ禍でも工夫して活動を継続していくことや、今後の企画について伝えました。「なかなか集まる機会がつくれなかつたが、携帯などのコミュニケーションツールを使って繋がることができた」「オンライン企画を活用し、参加者にも喜んでもらえた」「子育て世代にはオンラインでも参加できるのがたかかったです」「できなかつた企画を開催したい」「バス企画で産地交流がしたいですね」「企画を工夫しメンバーを増やしたい」「他委員会の今後の企画を参考にしたい」など、それぞれの委員会がこの1年を乗り越えた様子や、活動への思いを共有しました。豊かな自然の中で交流を楽しむだけでなく、里山の現状を知り、委員会として何ができるかを考えるきっかけももらった交流デーになりました。



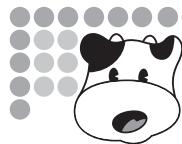
「里山は20年周期で順番に木を伐採して保全しますが、手を入れられずにいた木が虫にやられてダメになってしまっている」と現状を話す代表



酷暑の中でそよぐ風と、豊かな自然に癒されました



希望者には、じゃがいもの収穫体験。学校行事がなくなった子どもたちにとって、久々の貴重な屋外体験になりました



2022年度の委員会活動報告

2022年度の委員会活動が始まっています。様々に取り組む委員会企画の一部ですが紹介します。

オンライン・ピースカフェ 共に考えよう！ 世界の子どもそして平和

5月27日

家計活動委員会

世界の子どもたちへの保健と栄養、教育などの支援に取り組む、日本ユニセフ協会の職員を講師に、貧困や病気に苦しむ子どもたちの現状を学びました。また、今年の2月より激化する紛争の影響により、戦禍に巻き込まれたウクライナの子どもたちへの支援についても聞きました。クイズや解説を通して、ユニセフの活動への理解を深め、ウクライナの現状と医療物資や水、食料などの支援状況を聞き、子どもたちの厳しい現状を再認識しました。

オンラインでのグループトークでは、活発な意見交換ができ、平和への思いを共有しました。



パルシステム東京

オンラインピースカフェ・ユニセフ学習会

2022年5月27日(木) 14時

日本も戦後15年間ユニセフの支援を受けていたと知りました。また、パルシステムからのウクライナ緊急募金の用途についての報告もありました

©UNICEF/UN0398956/Diarassouba

「JICA地球ひろば」見学

6月30日

上池台委員会

世界の状況について知り、認識を深めようと「JICA地球ひろば」を訪問し、企画展の解説と青年海外協力隊での体験談を聞きました。

企画展示では、「SDGsのコト、本気で考える展」を開催中で、工夫を凝らした展示を見学。各国の17の目標の達成度が視覚化できるコーナーでは、日本の達成度は世界の18位（2021年度）、ジェンダーや温暖化などの取り組みが遅れていることがわかり「やっぱり」の声が。その後、協力隊の取り組みから、赴任先のモザンビークでの活動や暮らしぶりなどを聞き「丁寧な説明で、協力隊のことやモザンビークへの認識が深まった」の声が聞かれました。



「現地で活動する中で失敗から学ぶことがいっぱいあり、それをどう生かすかに重点をおいた」の話に納得！

商品カタログで食の安全深掘り！

6月25日

加藤ファーム委員会

毎週手元に届く商品カタログには、組合員にとって役立つ情報が掲載されています。その中でも、知りたいとの声が多い「遺伝子組み換え表示」について、PLA（パルシステム・ライフアシスタント）講師が解説しました。

市販品は、組み換え作物を使用しているか、表示を見ただけでは判断できないが、パルシステムはきちんと表示していることや、「主原料不使用」と「副原料不分別」について、商品カタログを見ながら丁寧な説明がありました。「今後の商品選びに役立てたい」などの感想もあり、商品への理解が深まりました。



頭皮をチェック！ ヘアケア学習会

7月1日

青梅委員会

頭皮の蒸れなど、髪の悩みが増える夏に向けて、髪や地肌のお手入れを学ぼうと今回の企画を開催。商品カタログ「素肌時間」でもお馴染のサンスター（株）を講師に招き、ヘアケアの方法を学びました。

講義では、髪の毛のいちばん外側を覆っているキューティクルの役割や、白髪のしくみと対策について解説がありました。また、アンケートでは30～60代の女性の9割以上が悩んでいる薄毛の対策として、正しいシャンプーの方法と頭皮マッサージを学習しました。育毛剤の使い方や、男女別育毛剤の違いなどもわかり、委員長は「今日から実践できる具体的な内容で、参考になりました」と話しました。



「白髪や薄毛などの話に参加者は興味津々！多くの質問が寄せられました